

ごあいさつ

近畿公立小中学校事務職員研究会

会長 西畑 ひろみ

秋冷の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は近事研活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

去る8月の臨時代議員会で会長の任を務めさせていただくこととなりました。何分経験不足のため皆様方にはいろいろご迷惑をおかけすることがあると思いますが、役員一同力を合わせて精いっぱい近事研活動の運営を進めていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、学校を取り巻く環境は、少子高齢化、地域における人間関係の希薄化、格差問題など非常に厳しい状況にあります。そんな中で学校には「地域とともにある学校作り」が求められ、そのための運営体制の構築、マネジメント力の強化等が必要となってきました。

私たち学校事務職員もこれらの課題解決のため、様々な場面でその役割を果たしていくことが求められています。教員が子どもたちに向き合うことができるように環境を整備すること、就学援助事務などを通して子どもたちが安心して教育を受けられるように環境を改善すること、マネジメント能力を発揮し学校運営に積極的に参画すること、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担うことなどが考えられます。そのためには日頃から情報のアンテナを高くし、研修・研究をして力量を高め、学校や地域に還元していくように努めなければなりません。

近事研では学校事務セミナーやサマーフォーラムの開催による研修の場の提供、「ねっとわーく近畿」やホームページを活用しての情報発信をしていきます。また、調査研究部や第12回近畿地区公立小中学校事務研究大会神戸大会実行委員会では、各单位研究会より選出いただいたメンバーで活動をしていきます。

「近畿はひとつ」の合い言葉のもと、この厳しい時代を乗り越えられるよう、学校事務の今後をとともに考えていきましょう。皆様の更なるご支援とご協力をお願いいたします。



平成24・25年度役員です。よろしくお願いたします。

役職名	名前	所属研究会
会長	西畑ひろみ	奈良県公立小中学校事務研究会
副会長	河田 一美	京都市立学校事務研究会
副会長(調査研究部長)	田中 一吉	大阪府公立学校事務研究会
会計	山本 昌代	神戸市立小中学校事務職員研究会
事務局長	森井 清子	奈良県公立小中学校事務研究会
事務局次長(研究担当)	角石 秋子	神戸市立小中学校事務職員研究会
事務局次長(広報担当)	吉川 協子	滋賀県公立小中学校事務研究協議会
監査	内田 正嗣	大阪府公立学校事務研究会
監査	田中 孝夫	滋賀県公立小中学校事務研究協議会
顧問	大村 勇	滋賀県公立小中学校事務研究協議会
顧問	若林賀津子	奈良県公立小中学校事務研究会

近事研奈良大会お礼

第11回近畿地区公立小中学校学校事務研究大会（奈良大会） 実行委員長 小谷 英美

8月23日暑い日差しの中、第11回近畿地区公立小中学校学校事務研究大会（奈良大会）にご参加いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。近畿はもとより全国より669名のご参加をいただき、多くの成果を得ることができました。「近畿はひとつ」の合い言葉のもと、各研究会より選出いただきました実行委員の皆様と、心をひとつに集結できた大会であったと感慨深く思っています。

大会テーマ「うるわしの国、倭からつなげる学校事務～未来を生きる子どもたちのために～」のように大会で得られた事が子どもたちのために、倭（奈良）から未来へつなげる、全国へつなげる広がりを持ってくれると確信しています。

文部科学省の行政説明に代わり、全国公立小中学校学校事務職員研究会会長の横山様から、国の動向と学校事務のミッションについてお話をいただき、今事務職員に求められるものを示唆いただきました。



近事研調査研究部の報告では、「経験年数別学校事務職員意識調査」の結果をもとに、目指す学校事務職員像を探りながら各研究会に波紋を投じてくれました。

二つの分科会では、「学校事務の総合マネジメントができる事務職員となるために自分の持つ殻を脱ぎましょう！」と「事務職員から提案する学校間連携・地域連携を通し新しい学校事務の機能を探る」事を多くの参加者に投げかけ一緒に考えることができました。このような内容を大会の記録集としてまとめさせていただき、発刊することになりました。今後もみなさま方よりご意見ご指導を賜り、教育を支える学校事務職員となるべく取り組んでまいりたいと思います。なお、今大会を開催するにあたりまして、ご支援・ご協力を賜りました皆様に心から感謝申し上げます。



近事研奈良大会報告

平成24年8月23日、奈良県文化会館において、第11回近畿地区公立小中学校学校事務研究大会（奈良大会）を開催しました。

まず、全事研会長 横山泉様より、「国の動向と全事研活動」という演題で、教育振興基本計画、教員の資質能力向上―教員免許制度の改革、学校や事務職員を取り巻く現状、事務職員のキャリア形成について、詳しくお話いただきました。地域との連携の核となり、キャリアデザインを描ける事務職員が求められていることや、初任期の適切で的確な研修の必要性を説かれました。

続いて、近事研調査研究部より研究報告を行いました。経験年数別意識調査の結果から、「目指す事務職員像」を探るというものでした。どのように学校経営へ参画し職務を遂行していけばよいかは、所属研究会・市町村が違って変わらない課題であり、経験年数が違って事務職員としてスキルアップを図っていきたいという思いは共通していることなどを発表しました。

午後からは、第1分科会では、「やってみよう！が学校を変える～もう脱ぎましょう〇〇の殻を」という題で、あるべき事務職員像に近づくために、「壁」を打ち破り、アクションを起こしていくにはどうすればよいか、研究発表されました。いろいろな課題に前向きに取り組むことで弱みを克服し、よりよい学校づくりに貢献できる事務職員を目指そうと提案されました。第2分科会では「新しい学校事務の機能を探る～事務職員から提案する学校間連携・地域連携とは～」という題で、共同実施を進める中、定型業務から企画調整、そして地域連携業務へ学校事務の機能を展開していく方策について研究発表されました。「連携」についての実践レポートや意識・実態調査から分析、考察され、「共同実施グランドデザイン」を提示されました。



（報告：角石 秋子）